

ブランドでも  
勝ち負けでもない、  
「新しい文脈」で  
人の力を引き出したい。  
これも関大パワー。

株式会社ホープス  
アスリート育成事業部長

## 足立 潤哉さん

関西大学 総合情報学部 総合情報学科 2009年卒

1985年生まれ 大阪府吹田市出身  
就活終了後バックパッカーで海外を行脚、  
株式会社デンソーに就職。  
30歳で自転車で日本縦走(沖縄→青森→横浜)の後、  
アメリカの大学院(Eastern Illinois University 大学院  
Kinesiology and Sports Studies 専攻修士課程修了)で  
学ぶ。卒業後帰国し人材育成業界へ。  
企業向け研修会社2社を経て、アスリート向け座学研修を軸に  
事業を営む株式会社ホープスにて現職。



アスリートの成長を「知力の強化」で支援する、人材育成のプロ集団・株式会社ホープス。

アスリート育成事業部長の足立潤哉さんは関大体育会バスケットボール部副キャプテン時代に自身が苦しんだ勝利至上主義のスポーツ風土に、人それぞれの角度から新たな地平をひらくチャレンジを続けています。  
「多数派の価値」にとらわれず「自分軸の“勝ち”」の定義を探求してきた、波乱の半生を伺いました。

企業やスポーツ団体から研修の外部委託を受ける会社で、アスリートと企業向けに、「研修講師」をやっています。小さい会社なので営業からクローズまで1人でやります。僕の主な担当コンテンツは、プロ野球の新入団選手などが対象のリーダーシップ養成やチームビルディングですが、社内にコンテンツは100以上あって、中には狂言師から「見て技を盗む」スキルを体得するといったユニークな研修もあります。

研修は「経験学習」という少人数グループワークで進めます。例えば「時間内で設計図通りにみんなでモノを組み立てる」という1つの疑似体験をして、チームワークコミュ

ニケーション、相手を思いやる必要度などを抽出します。そして「会社や競技の現場ならどうか?」に落とし込んでいきます。

一番うれしいのは、会社とか自分の役割を超えた「気づき」を得てもらえた瞬間です。普段の仕事や文化の文脈の中では「あなたは間違っている」「あなたはできない」といわれて窮屈を感じて居るような人達が解放されると「あっ、変わった」と、表情や非言語の部分で手に取るようにわかります。面白いことに講師によって、気づきや行動変容の質が変わること。自分のヒューマンスキルが出るのがやりがいですね。

# みんなと同じでなくていいい、結果がダメでもOじゃない フェアな指導者に恵まれたバスケ生活

僕は小学校から大学までバスケットをやりましたが、高校までは無名選手でした。その中で「一方向だけ見られて、単一的な評価をされる苦しさ」を原体験で持っています。特に中3までは背が低くて速く走れなかった。でも中学の監督が僕のことを認めてくれたんです。どの部分が僕が誰よりもうまいか、正確にジャッジしてくれた。あの時「成長が追いつけば彼は“化ける”」と言ってくれる人がいなかつたら、多分僕は大学までバスケットはしていません。実際身長が伸びるとパフォーマンスが上がり、どんどん勝てるようになりました。

高校では「自由と責任」を与えてくれる監督に会って、成功体験で自信がつきました。何でも生徒自身にやらせて、うまくいけば認め、うまくいかなかつたら内省。チームはすごく伸



びて先生には認められました。結果としては大阪ベスト16止まりでしたが、やりきった感はありました。学生スポーツは特に「自分なりの納得感」が大事では、と思います。

全国1位になれば雑誌で華やかに扱われ、プレーも事細かく取材されます。でも僕は「強い・勝つ」ことだけに魅入られなかった。社会的な評価がなくても力さえあれば、「文脈」が変われば必ず認められると、この高校の無名時代で学びました。強いチームの人=素晴らしい人間、でもなかつたし、肩書でなく「この人が本当にすごいか」を見るようになりました。逆に強いチームにいたら、今みたいな物の見方はできなかつたでしょう。ずっと無名だからこそ、一時の評価で右往左往しなくなつた。反骨心ともいえますね。

関大バスケ部に入ると、全国優勝したキャプテンや得点王とか、すごい選手ばかりでした。僕はスポーツ推薦入学でもなく国体も無縁、でも監督は僕みたいな無名の選手を1回生から積極的に試合に出してくれて、3回生でレギュラー、4回生で副キャプテンになりました。

学生生活はバスケ中心でも「体育会=“スポーツバカ”」のイメージは嫌で、文武両道を心がけていました。だから勉強は最低限していたし、引退後は英語を本格的にやりだしました。

## 「ありがちな文脈」で勝ってしまった就活 勝負の外で培ったプライドを、なぜ出せなかつた？

でも副キャプテン時代はいい思い出がありません。関大は僕らの代だけ全国大会に出られなかつたから。他の代はすごく功績があるのに…今は「逆にいい経験」と言えますが、大学の体育会は勝ちがすべて、負けた時の過程は全然評価されない。この風土は誰かが壊していくないと、また誰かが同じように苦しむ。今、研修仕事で「人生はそのムラ社会のルールだけじゃない」と伝えるのは、その時の苦い経験あってのことです。

大学の視点だと「弱い代だったね」で終わりですが、僕は「社会だと自分達がやってきたことは認められるはずだ」という自負がありました。「己の脆弱さを思い知ってきたこと」「人生には“自分軸”が必須だと、原体験で悟ったこと」などです。

なのに就活は「相手によく思われる」ニーズを察知しきて、自分らしさをロジカルに封じてしまった。「大手に入って見返してやろう」的な、くだらない思いもあったかもしれません。結局「一面から見た良いところ」ばかりアピールしていました。「スポ推でないのに副キャプテンまでやつた」「インカレ出場



や西日本大会での準優勝」とか。僕の強みはそこではないのに。運良く大手自動車部品メーカーのデンソーに決まりましたが、この活動は6年後に「このままでいいのか」と迷う原因になったと思います。

## 足立さんのある1日

- 4:55 起床  
~5:30 メールチェック&返信  
~6:30 10kmラン (150km~200km/月)  
~7:45 入浴&朝食  
● アミノ酸&フルーツ、ヨーグルト&  
ビタミンB・Cのサプリメント  
消化の良い食事を心がける  
9:00 研修会場入り (都内)  
9:30~17:00 中堅社員リーダーシップ研修  
17:30~19:00 カフェでメールチェック  
● 次回の研修の資料のチェック&食事  
19:30~21:00 地方創生のセミナー参加  
● 都市部以外でスポーツを手段とした  
人材育成の可能性を模索  
22:00 帰宅  
● 入浴後「北の国から」の名シーンを見て、  
今の自分の在り方を自問自答…  
23:30 就寝

## どこにもない学びの 場がここにはある

「世界も分野も限らず“文化に育まれた豊かな個性”を持つ人材を、社会に、世界に羽ばたかせたい」という想いのもと、企業とアスリート向けに様々なニーズに対応したオーダーメイドの研修プログラムを提供しています。

株式会社ホープス  
(hopes, inc.)

〒150-0022  
東京都渋谷区恵比寿南3-9-11 3階  
TEL 03-6451-2450

<http://www.hopes-net.org>



## 僕は、本当にやらなければいけない仕事に向かう 震災の混乱の中、パラダイムが大きく変わった

結局その6年後、僕は大きく進路を変えました。デンソーを退社して、イリノイ州の大学院でスポーツ経営学を学び、32歳で帰国後2社を経て、今があります。

会社をやめてアメリカに勉強に行こうと思ったきっかけは、東日本大震災です。デンソーでは輸出入の管理部門で、僕が明けても暮れても海外とやり取りをしている間、住む場所が違うだけで多くの人生が劇変している。死生観とともにパラダイムが一変した瞬間でした。今の僕と、仕事が全然つながらない。これは「モビリティで世界を変える人」がるべき仕事だ。

急に自分に矢印が向きました。じゃあ僕は何を?やはりスポーツだ。僕はスポーツで世の中を変えたいんだ、と気づきました。

そして今は、数年以内に滋賀に住んで仕事をしようと計画中です。僕らには作り出せない自然という場では、人材育成でも、オフの場で集まる時も、人の本当の良さが出ると思います。アメリカ行きの前に自転車で日本を廻っていて、滋賀はすごくいいと直感したんです。個人的には震災での死生観の変化で、大阪の親の近くにいたいという思いもあります。

# 就職でなく起業を選ぶなら、セルフリスクマネジメントを自分軸で「満たされる条件」をつかもう



自分の好きなことで活躍しようとを考えている学生さんに僕がお伝えしたいのは「手段と目的を明確に」。つまり「何で起業なのか?」「10年後どうなっていいか」一度俯瞰してみてほしい。起業はあくまで手段だからです。

「ココ」が満たされていれば、別に起業でも大手でも、中小でも、ベンチャーでもいいな、というポイント、価値基準をつかむ。その実現の一手段が起業です。「好き」は変わっていくものです。「これがしたいんだ」というのは確かにかっこいいけど、「果たして本当にそんなものあるのかな」とか「もしかして私って~」とか、先々の可能性をキープした方がいい。人生100年、VUCAと言われる今の時代ですので、焦らずに最適なタイミングを探ってみるのはいかがでしょうか。

## 「あなたにとって関西大学とは?」

いっぱい失敗しても致命傷にならない、命は守られている安全の中で遊び、チャレンジさせてもらった場所です。関大は…良くも悪くも「私、関大卒です」だけでは生きていけない、そこがいい(笑)もちろん根本的には誰も肩書だけでは生きられませんが。関大って確かに関関同立ブランドですけど、就活で足切り食らわない程度にいい社会的評価がありつつ、変な「学歴頼み」はしない。自分ブランドを作る環境になれば関大生は自

由で「自分で何かやってやる」的なモチベーションや意欲が強いんじゃないかな。女性も、自分で人生切り開いているOGが多いです。関大はモテるという噂があるんですか?否定はしません。変なプライドがない人って美しい。よく笑って、明るく裏方もやる。在学中は価値として見えなかったけど、社会に出るとそういう泥臭さや「ブランドを背負わない生き方」ってかっこいいなと思う。だから「モテる」はあながち嘘ではないだろうと、僕は思います。願いをこめて(笑)

(撮影・取材:関西大学東京センターにて)

### KUT OBOG Interviewについて

関大東京センターのご利用者で、首都圏でご活躍中のOBOGの方々に登場いただき、学生時代のエピソードから現在の活動・ビジョン等をご紹介する特集です。

- 関西大学東京センター公式マスコット、忍者の“ほなくん”。おもな任務は、館内やSNSなどで広報活動のお手伝いをすること。時には取材にも参加します。



### 関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階  
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671  
<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式Twitter



公式Facebook